

第4章 業務概要

1 事業推進課

1.1 庶務・企画

- (1) 所の庶務・維持管理
- (2) 有識者会議（アドバイザリーボード）
- (3) 研究所職員向け研修・研究発表の統括
 - ・安全衛生教育研修（2017年4月5日）
 - ・公用車（電気自動車）研修（2017年4月5日）
 - ・メンタルヘルス講習会（2017年7月18日）
 - ・高压ガス保安講習会（2017年11月30日）
 - ・分析技術研修（2017年1月31日）
 - ・所内研修会－平成29年度調査研究等成果報告会－（2018年3月16、20日）
- (4) 研究所年報刊行、ホームページ管理

1.2 環境教育・学習業務

- (1) 環境学習教室等のイベントの開催

ア オープンラボ 2017

環境月間（6月）の事業として、環境問題に関する体験学習と施設公開を実施した。

イ NPO法人等多様な主体と連携した環境教育の実施

市民団体や企業などの多様な主体と連携して環境教育を行うことを目的に、2013年度より委託事業を実施している。2017年度は特定非営利活動法人鶴見川流域ネットワーキング及びNPO法人とどろき水辺が受託し、次の講座を実施した。

- ・研究所の研究成果を活用した環境科学教室

(ア) 子供と保護者を対象としたこども環境科学教室（1回）

(イ) 夏休み環境科学教室（全3回）

- ・研究所の立地条件を活かした多摩川河口干潟の生きもの観察会

(ア) 小学生以上を対象とした干潟の生きもの観察会（全8回）

(イ) 多摩川河口の野鳥観察会（1回）



こども環境科学教室



夏休み環境科学教室 1



夏休み環境科学教室 2



干潟の生きもの観察会



野鳥観察会

ウ 環境セミナー

市民及び職員を対象に水、大気、都市環境等の分野を学ぶ講座の実施。2017年度は、第1部講演「国際的な環境管理、特に廃棄物管理を中心に」（講師：国連環境計画（UNEP）国際環境技術センター企画官 本多俊一氏）及び第2部講演「環境総合研究所における国際貢献の取組」（講師：川崎市環境総合研究所 事業推進課 山口担当係長）の講義を実施した。



環境セミナー

エ 関係機関との協働事業の実施

夏休み多摩川教室、キングスカイフロント夏の科学イベントへの出展



夏休み多摩川教室1



夏休み多摩川教室2



キングスカイフロント夏の科学イベント

オ その他

環境総合研究所環境学習学生サポート制度の開始。（登録10名）

(2) 学校の体験授業の受け入れ

小・中学校等からの体験授業の依頼による環境学習の実施



宮内中学校総合学習



旭町小学校総合学習



横浜女学院環境学習

2017年度環境教育・学習事業概要一覧

No.	事業名	実施日	実施概要	対象及び 当日参加人数
1	市立東大島小学校総合学習	5月15日	多摩川河口干潟の生きものの観察（講師：多摩川クラブ）及び研究所の環境学習用冊子「水辺の生きもの」による環境学習を実施。	東大島小学校 5年生 30名
2	第1回干潟の生きもの観察会	5月27日	多摩川河口干潟に生息している生物や干潟の浄化機能の講義及び、干潟の生きもの調査と二枚貝による水の浄化実験を実施（定員：60名）。 講師：榎本正邦（環境研究家）・江良弘光（サイエンスグラフィックイラストレーター）	小学生以上 50名
3	第2回干潟の生きもの観察会	6月10日	多摩川河口干潟に生息している生物や干潟の浄化機能の講義及び、干潟の生きもの調査と二枚貝による水の浄化実験を実施（定員：60名）。 講師：榎本正邦（環境研究家）・江良弘光（サイエンスグラフィックイラストレーター）	小学生以上 56名
4	市立東大島小学校総合学習 (2回目)	6月11日	多摩川河口干潟の生きものの観察（講師：多摩川クラブ）及び研究所の環境学習用冊子「水辺の生きもの」による環境学習を実施。	東大島小学校 5年生 30名
5	エコ暮らしフェア	6月17日	環境に配慮した生活を楽しみながら学んでもらうことを目的に、環境局及び川崎フロンターレ等が共催する事業で、「つくろう！瞬間冷え冷えパック」のブースを運営。省エネ地球温暖化対策として注目された瞬間冷却材を尿素と水の化学反応を利用して参加者が手作り。	小学生以上 47名
6	第3回干潟の生きもの観察会	6月25日	多摩川河口干潟に生息している生物や干潟の浄化機能の講義及び、干潟の生きもの調査と二枚貝による水の浄化実験を実施（定員：60名）。 講師：榎本正邦（環境研究家）・江良弘光（サイエンスグラフィックイラストレーター）	小学生以上 33名
7	オープンラボ 2017	6月28日	「ペットボトルで水質浄化実験」をテーマに、手作りろ過装置を作り、河川水や米のとぎ汁、トマトジュースなどのろ過実験や環境総合研究所の業務内容を広く理解してもらうための施設見学を実施。（定員：50名）	小学4～6年生 34名
8	市立宮内中学校総合学習授業	7月4日	「環境問題について考える」というテーマで総合学習を行っている中で、環境総合研究所の見学と水質環境に関する実験を実施。	宮内中学校 1～3年生 25名
9	第4回干潟の生きもの観察会	7月9日	多摩川河口干潟に生息している生物や干潟の浄化機能の講義及び、干潟の生きもの調査と二枚貝による水の浄化実験を実施（定員：60名）。 講師：榎本正邦（環境研究家）・江良弘光（サイエンスグラフィックイラストレーター）	小学生以上 58名
10	横浜女学院環境学習	7月11日	環境問題に関する授業を行うあたり、環境総合研究所の取組を理解するための施設見学と燃料電池に関する実験を実施。	横浜女学院 高等学校1年生 22名
11	第5回干潟の生きもの観察会	7月23日	「干潟の生きもの観察とスケッチ」をテーマに、多摩川河口干潟の生きものを採取し、生きものの特徴をよりよく観察するためスケッチを実施（定員：60名）。 講師：榎本正邦（環境研究家）・江良弘光（サイエンスグラフィックイラストレーター）	小学生以上 60名
12	夏休み多摩川教室	7月25日 26日	多摩川の水質や自然環境等へ持続的に興味を持つもらうことを目的に多摩川流域協議会が開催する夏休み多摩川教室において、関係部署とともに「川の中の生きものコーナー」を実施。川の中の魚や底生生物などを採取し、顕微鏡で観察を実施。	一般 648名 (全体 880名)
13	星空ウォッキング in キングスカイフロント・夏	7月28日 (曇天中止)	星空観察を通して、大気環境について考え、身近な環境保全活動へのきっかけとして、「かわさき宙と緑の科学館」と共同で開催を予定していたが、当日は曇天のため中止。（定員：70名）	小学生以上 —
14	キングスカイフロント 夏の科学イベント	8月2日	「殿町国際戦略拠点キングスカイフロント」にて、立地研究機関等によるイベント「キングスカイフロント夏の科学イベント」を実施。環境総合研究所は、「研究所探検」及び「作ろう！瞬間冷え冷えパック」等のブースを担当。	一般 1200名
15	第1回夏休み環境科学教室	8月4日 午前	「見えない空気を調べてみよう」をテーマに、空気の成分や性質に関する実験や大気汚染を学ぶために物の燃焼に関する実験を実施。（定員：各50名） 講師：小林範和氏（鶴見川流域ネットワーキング）	小学4年～中学生 とその保護者 27名
16	第2回夏休み環境科学教室	8月4日 午後		小学4年～中学生 とその保護者 30名

17	第3回夏休み環境科学教室	8月4日	「川崎港乗船体験」をテーマに、港湾局の船による川崎港の見学と赤潮の原因となるプランクトン等の顕微鏡観察及び研究所の見学を実施。(定員:各40名) 講師:岸由二氏(鶴見川流域ネットワーキング)	小学4年～中学生 とその保護者 34名
18	第6回干潟の生きもの観察会	8月9日	「干潟の生きもの観察とスケッチ」をテーマに、多摩川河口干潟の生きものを採取し、生きものの特徴をよりよく観察するためスケッチを実施(定員:60名)。 講師:榎本正邦(環境研究家)・江良弘光(サイエンスグラフィックイラストレーター)	小学生以上 43名
19	第7回干潟の生きもの観察会	8月22日	「干潟の生きもの観察とスケッチ」をテーマに、多摩川河口干潟の生きものを採取し、生きものの特徴をよりよく観察するためスケッチを実施(定員:60名)。 講師:榎本正邦(環境研究家)・江良弘光(サイエンスグラフィックイラストレーター)	小学生以上 36名
20	市立小倉小学校環境学習	9月4日	多摩川河口干潟の生きもの観察(講師:多摩川クラブ)及び研究所の環境学習用冊子「水辺の生きもの」による環境学習を実施。生きもの観察(講師:多摩川クラブ)及び研究所の環境学習用冊子「水辺の生きもの」による環境学習を実施。	小倉小学校5年生 114名
21	こども環境科学教室	9月9日	「川にすむ生きものを調べよう」というテーマで、多摩川等々力河川敷において魚とり体験と水辺の生きものの観察を実施。(定員:60名) 講師:榎本正邦(環境研究家)・江良弘光(サイエンスグラフィックイラストレーター)	小・中学生 とその保護者 42名
22	第8回干潟の生きもの観察会	9月18日	多摩川河口干潟に生息している生物や干潟の浄化機能の講義及び、干潟の生きもの調査と二枚貝による水の浄化実験を実施(定員:60名)。 講師:榎本正邦(環境研究家)・江良弘光(サイエンスグラフィックイラストレーター)	小学生以上 47名
23	市立藤崎小学校総合学習	9月19日	多摩川河口干潟の生きもの観察(講師:多摩川クラブ)及び研究所の環境学習用冊子「水辺の生きもの」による環境学習を実施。	藤崎小学校5年生 120名
24	市立旭町小学校総合学習	10月5日	「川崎の環境について」をテーマに、班に分かれ、環境総合研究所について説明と見学、及び大気汚染の状況を調べるマツの葉の気孔観察実験を実施。	旭町小学校5年生 59名
25	多摩川河口の野鳥観察会	12月3日	多摩川河口に生息する野鳥及び双眼鏡の使用方法など野鳥観察の予備知識についての講義及び観察を実施。(定員:60名)	小学生以上 43名
26	星空ウォッキング in キングスカイフロント・冬	2018年 2月2日 (荒天中止)	「かわさき宙と緑の科学館」と共同で開催し、すばるやオリオン大星雲に関する解説及び天体望遠鏡での星空観察を予定していたが、荒天のため中止。(定員:70名)	小学生以上 —
27	市立川崎高等学校付属中学校 校外学習	3月8日	校外学習でキングスカイフロントを見学。環境総合研究所その他立地機関(実験動物中央研究所、ナノ医療イノベーションセンター)の説明と施設見学を実施。	中学2年生 120名
28	2017環境セミナー	3月15日	UNEPの本多企画官を招き「国際的な環境管理、特に廃棄物管理を中心として」をテーマに講演いただき、あわせて研究所の国際貢献の取組を紹介した(定員:80名)	市民及び職員 44名
29	学生サポーター	通年	研究所の環境学習のイベント・講座等の当日の運営補助の学生ボランティア。	登録学生10名 延べ22回

(3) 教材の活用

- ア 環境学習用教材(すごろく型エコライフゲーム等)の貸出
- イ 環境学習用冊子等の配布
 - ・環境学習用冊子・教材「水辺の生きもの」冊子・下敷きの配布
 - ・環境学習用冊子「大切な大気のはなし」の配布



大切な大気のはなし

1.3 国際展開・環境技術情報業務

(1) 国連環境計画(UNEP)等との連携事業

「第14回アジア・太平洋エコビジネスフォーラム」の開催(2018年2月1日)

(2) 環境技術情報の収集・発信

- ア 環境技術情報ポータルサイトの運営
- イ アーカイブスペースの管理・運営

(3) 中国瀋陽市との連携・協力

- ア 第20期瀋陽市環境技術研修生の受入れ

イ 中国大気環境改善のための都市間連携協力事業

(4) 海外からの環境技術に関する視察・研修の受入れ

2017年度視察受入数：中国、インドネシア共和国、フィリピン、ミャンマー、ベトナム、マレーシア、インド、タイ、カンボジア、エチオピアなど23件（298名）

1.4 国際連携・研究推進業務

(1) 国際貢献の推進に向けた研究

ア マレーシア国ペナン州「Waste to Energy 技術」による低炭素都市形成支援事業

イ インドネシア共和国バンドン市との国際連携の構築に基づくグリーンイノベーション及び技術移転を通じた国際貢献の推進事業

ウ 本市の特性を活用した都市間連携によるアジア諸国の環境問題解決に向けた技術・社会システムの構築

(2) 低炭素都市に係る総合的な研究

ア 市内の国立研究開発法人が保有する優れた技術を基にした技術開発共同研究～途上国の温暖化対策・砂漠化防止に貢献～

イ 市内企業が保有する優れた技術を基にした技術開発共同研究～本市と覚書にて連携する途上国への導入予定機器運用上の課題を解決～

(3) 環境施策に係る総合的な研究

環境配慮型新ライフスタイル提案のための新たなアプローチ手法の開発と適用に関する研究

2 都市環境課

2.1 都市環境研究業務

(1) 地球温暖化対策に関する調査研究

ア 気候変動に関する調査研究

イ 温室効果ガス排出量に係る調査研究

(2) ヒートアイランド現象に関する調査研究

ア 気温分布に関する調査

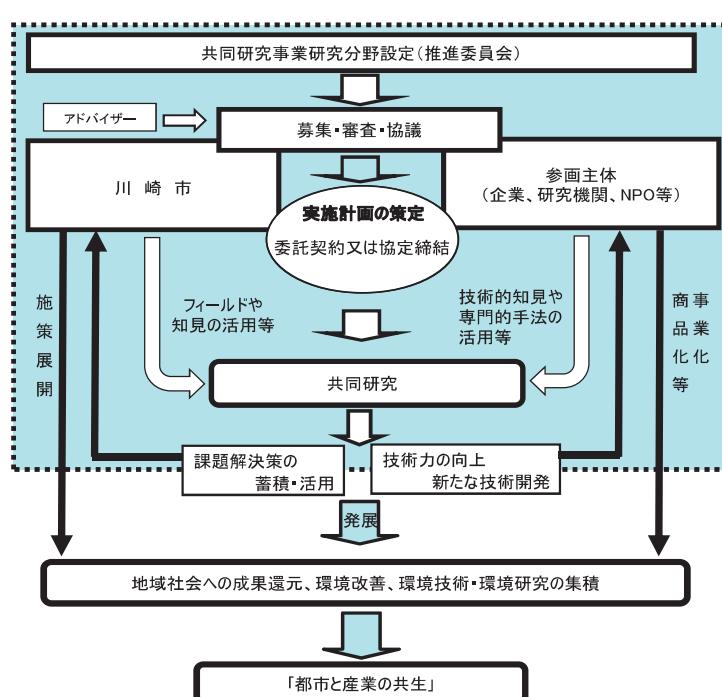
一般環境大気測定期局9地点のデータ活用に加えて生田緑地内にて気温の測定を実施

イ 熱中症と気温との関係に関する調査研究

2.2 産学公民連携業務

(1) 環境技術産学公民連携共同研究事業

2017年度の共同研究事業は、7件（公募型共同研究事業5件、連携型共同研究事業2件）を実施



ア 公募型共同研究事業

毎年度公募を行い、選定した研究テーマについて、委託事業として実施する共同研究事業

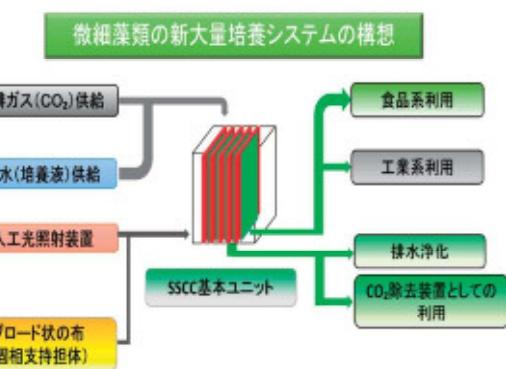
(ア) 微細藻類の新大量培養システムの研究開発

(共同研究者：学校法人東京薬科大学 研究期間：2016 年度～)

学校法人東京薬科大学（東京都八王子市）と本市は、微細藻類の光合成機能に着目し、2016 年度から東京薬科大学らが開発した“微細藻類の効率的な培養による CO₂ 固定化システム（固相表面連続培養システム）”の実用化に向けた研究を行っている。

2016 年度は本システムの工場等への実導入を想定した設置環境を考慮し、市内の事業所から排出される実際の排水を培養液として、微細藻類の一種である“クロレラ”培養の適否、CO₂ の固定化、更には水質浄化効果（リンの除去）の検証を行った。

2017 年度は複数枚の支持担体を有する円筒型ユニットの試作機を製作し、そのユニットにおけるクロレラの培養能力及びリンの除去能力について検証を行った。市内には、数多くの企業が立地しており、そうした各企業内の排ガスからの CO₂ の固定化やリン除去等の排水浄化を補助する装置として期待される。



(イ) 環境エネルギー・シミュレータを用いた再生可能エネルギー地域連携モデルの研究

(共同研究者：富士通株式会社 研究期間：2017 年度～)



エネルギー地域連携モデルイメージ

富士通株式会社（川崎市中原区）と本市は、2017 年度から、環境・地域特性に合わせた地域連携エネルギー・シミュレーションを確立し、現状個別に取り組んでいる省エネ・創エネ及び再エネ利用を一定の地域内で平準化することによる地産池消の可能性について研究を行っている。

2017 年度は、市内の再エネ設備情報等を収集し、それらをデータベース化・可視化するとともに、市内の気象情報等を考慮し、電力エネルギー需給に関するシミュレーションを行った。

この研究により再エネの効率的な活用が可能となり、市内 CO₂ 排出量の削減に資することが期待される。

(ウ) 人口減少社会におけるグリーンインフラとしての空地デザイン技術ならびに空地まちづくりの構想技術に関する研究

(共同研究者：学校法人工学院大学 研究期間：2017 年度～)

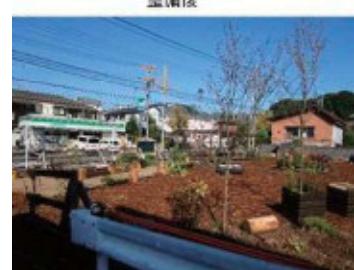
学校法人工学院大学（東京都新宿区）と本市は、2017 年度から、今後の人口減少社会において空地が環境問題となることを回避するために空地を新たに“グリーンインフラ”として、人が使えるものとしてデザインする技術及び“グリーンインフラ”的利活用手法について研究を行っている。

2017 年度は、麻生区金程の公益用地において、雨水が地下に浸透し、地下水として保たれることを促すことで生物の生育を助長するとともに、緑化が人に与える効果を目的に、全面樹皮マルチング、スウェール及び季節感のある植栽などを配置したグリーンインフラのプロトタイプを整備した。その後、地域住民の理解、参加を図るため、現地でワークショップなどを開催し、プロトタイプに対する地域住民の期待・要望、課題等を把握した。

この研究により緑を活かした公有空地の有効利用モデルとして横展開していくものと期待される。



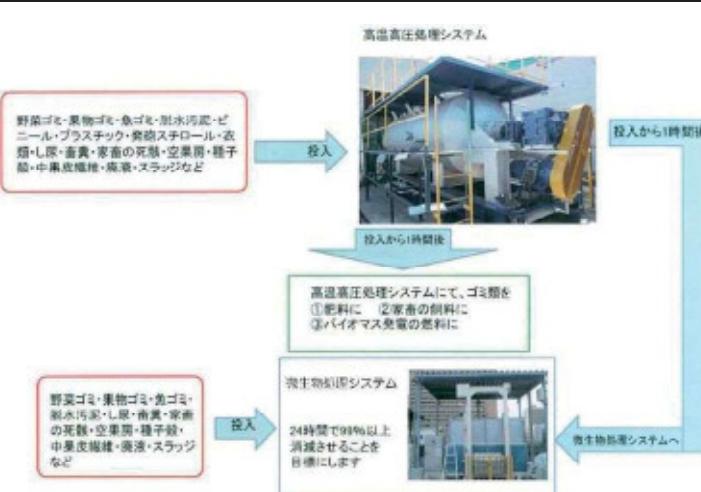
整備直前の状態



整備後

(イ) 有機残渣類の高温高圧処理及び微生物処理の処理能力向上に関する研究

(共同研究者：合資会社ドクターキッド 研究期間：2017年度～)



合資会社ドクターキッド（千葉県八街市）と本市は、2017年度から、極力有機残渣を少なくするために微生物処理と高温高圧処理を組み合わせた処理システムの処理能力向上について研究を行っている。

2017年度は室内での小規模な実験を繰り返し実施し、処理能力を向上させるための微生物の組み合わせ、割合等の条件を検証した。その後、市の施設に実験用の小型微生物処理装置を設置し、市内企業から提供された食品残渣を投入し、実環境下での実証を行った。

廃棄物の焼却処理量の削減が可能となり、CO₂排出量の低減やごみの最終処分場の延命化に資するものと期待される。

(オ) 連続粉塵モニターの実用化研究

(共同研究者：株式会社田中電気研究所 研究期間：2017年度)

株式会社田中電気研究所（東京都世田谷区）と本市は、2017年度に、迅速な粉塵の飛散対策を可能とするため、吸引流量が多く、かつ、低濃度測定が可能な“連続粉塵モニター”的実用化に向けた研究を行った。

まず、連続粉塵モニターで用いる光電子増倍管が周囲温度変化の影響を受けやすいため、試作機の改良を実施した。その後、市の保有する大気測定局において公定法に基づく測定を同時に実行し、その結果を比較することで、それらの相関性を確認した。更に、市内事業所において実際の使用環境を想定した遠隔監視システムのフィールド実証を行い、動作環境の条件を確認した。



イ 連携型共同研究事業

多様な連携のスタイルに対応するため、2014年度に「環境技術産学公民連携共同研究事業に係る申請及び実施に関する要領」を改正し、新たに位置づけたフィールド提供を中心とした共同研究事業

(ア) ブラウンフィールドにおけるファイトレメディエーション導入の共同研究

(共同研究者：学校法人五島育英会東京都市大学 総合研究所 応用生態システム研究センター)

研究期間：2017年2月～

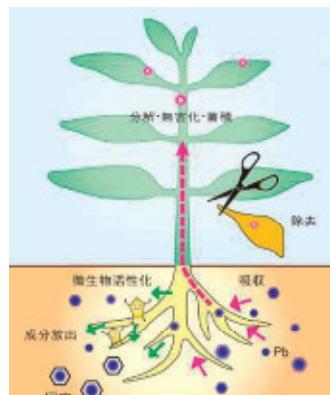
学校法人五島育英会東京都市大学 総合研究所 応用生態システム研究センター（横浜市都筑区）と本市は、2017年2月に共同研究実施に係る覚書を締結し、植物を使った汚染土壌の浄化について研究を行っている。

この研究では、植物の育成環境に厳しいといわれる、地下塩水、潮風の影響を受けやすい臨海部地域を実験フィールドとし、「鉛」による汚染を土地の表層部だけでなく根の深い植物を用いて深さ方向にも着目した実証実験を行っている。

2016年度は臨海部地域における実証フィールドの検討を行った。

2017年度は市内臨海部地域の事業所と連携し、同事業所内のブラウンフィールドにおいて、複数の供試植物を育成・採取・分析し、鉛の除去効果等の実証を行った。

※ 図は王効舉・李法雲・岡崎正規・木崎三男（2004）：ファイトレメディエーションによる汚染土壌修復、埼玉県環境科学国際センター報第3号、pp.114-123 を基に作成



(1) 溶融噴射式遮熱塗料の効果検証

(共同研究者：信号器材株式会社 研究期間：2017年8月～)



信号器材株式会社（川崎市中原区）と本市は、2017年8月に共同研究実施に係る覚書を締結し、溶融噴射式遮熱塗料について研究を行っている。

この研究では、ヒートアイランド現象の緩和を目指し、独自の溶融噴射式カラー舗装の技術をベースに遮熱顔料を組み合わせたアスファルト路面用の遮熱塗料を開発し、その実用化に向けた実証実験を行っている。

2017年度は、かわさきエコ暮らし未来館駐車場において実際に遮熱塗装を行い、遮熱効果や耐久性等を検証した。

(2) 共同研究事業に係るセミナーの開催（2回）

ア キックオフセミナー（2017年7月31日）

2017年度に選定した公募型共同研究事業5件に係るキックオフセミナーを開催。出席者65名

イ 成果報告会（2018年3月19日）

2017年度に実施した共同研究事業の成果を報告するためのセミナーを開催。出席者42名

(3) 川崎国際環境技術展への出展

2018年2月1・2日に開催された川崎国際環境技術展2018へ出展し、産学公民連携事業について、これまでに実施した共同研究の事例紹介及び2017年度に実施した共同研究事業について情報発信を行った。

3 環境リスク調査課

3.1 環境化学物質研究業務

(1) 環境中の化学物質に関する調査研究

ア 川崎市化学物質環境実態調査

イ 市内化学物質環境実態調査に向けた分析法検討

(2) 水質汚濁に関する調査

ア 工場・事業場排出水中のVOC調査

イ 地下水及び土壤汚染に関する調査

・汚染井戸継続調査（VOC）

・土壤汚染地域周辺の地下水質調査（VOC）

ウ 水質事故・苦情に伴う調査（農薬、油類等）

3.2 環境リスク評価研究業務

(1) 化学物質による健康影響に係る環境リスク評価に関する調査研究

ア 化学物質環境実態調査

イ 大気拡散モデルを用いた曝露評価に関する調査研究

ウ 環境リスク評価手法の検討

(2) 環境及び発生源の有害大気汚染物質等に関する調査研究

ア 挥発性有機化合物及び多環芳香族炭化水素類のモニタリング調査

イ 挥発性有機化合物及び多環芳香族炭化水素類の臨海部平面分布調査

ウ オゾン層破壊物質及びフロン類代替物質のモニタリング調査

3.3 生物学的調査研究業務

(1) 水質汚濁及び生物多様性に関する調査研究

ア 公共用水域における水質及び水生生物生息状況調査

イ 多摩川河口干潟における生物及び底質調査

ウ 遺伝子解析を利用した生物生息状況調査

エ 水質事故・苦情に伴う調査（生物）

(2) 生物応答を利用した生態影響評価に関する調査研究

生物応答を利用した評価手法の検討

3.4 他機関との共同調査・研究

- (1) 国立研究開発法人国立環境研究所と地方研究所等の共同研究（II型）
 - 「高リスクが懸念される微量化学物質の実態解明に関する研究」
 - 「干潟・浅場や藻場が里海里湖流域圏において担う生態系機能と注目生物種との関係」
 - 「WET手法を用いた水環境調査のケーススタディ」
- (2) 神奈川県・横浜市との共同研究
 - 「POPs等難揮発性化学物質の大気環境中における動態」
- (3) 環境省受託化学物質環境実態調査（分析法開発及び環境調査）

4 地域環境・公害監視課

4.1 大気調査研究業務

- (1) PM2.5の成分分析に関する調査研究
 - ア 一般環境及び道路沿道における微小粒子状物質（PM2.5）の濃度実態調査
 - イ 微小粒子状物質（PM2.5）の成分調査及び発生源寄与率調査
- (2) アスベストに関する環境調査
 - ア アスベストの一般環境調査
 - イ 建屋解体等に伴うアスベスト調査
- (3) 酸性雨に関する調査
- (4) 降下ばいじんに関する調査

4.2 水質汚濁防止対策業務

- (1) 工場事業所排出水の水質及び工程調査
 - ア 工場・事業場排出水の水質調査
 - 工場・事業場の排出水に含まれる規制項目（VOCを除く）の水質検査
 - イ 工場・事業場における排水処理施設の維持管理に関する調査
- (2) 汚染井戸継続調査
 - ア 地下水汚染継続調査
 - 汚染井戸に関する水質（VOCを除く）の継続調査（特定有害物質等製造等事業所の地下水質調査、汚染井戸継続調査）
 - イ その他の地下水質（VOCを除く）調査

4.3 苦情・事故等に伴う調査業務

- (1) 大気・水質に係る苦情・事故等に伴う原因物質究明調査

4.4 環境大気常時監視業務

- (1) 一般大気環境常時監視測定
 - 一般環境大気測定期局9局での環境大気常時監視の実施
- (2) 道路沿道大気環境常時監視測定
 - 自動車排出ガス測定期局9局での環境大気常時監視の実施
- (3) 常時監視機器、測定期局の維持管理
 - ア 測定期局舎及び測定機器の維持・整備
 - イ 測定結果等の情報提供内容の充実
- (4) 原子炉施設周辺及び市内の環境放射能調査
 - ア 原子炉施設周辺の施設排水及び上水の放射能濃度調査
 - イ 原子炉施設周辺の堆積物及び土壤の放射能濃度調査
 - ウ 原子炉施設周辺の大気浮遊じん、定時降水及び月間降下物の放射能濃度調査
 - エ 原子炉施設周辺の空間ガンマ線量率調査
 - オ 原子炉施設周辺の放射線積算線量調査
 - カ 市内における空間放射線量調査
 - キ 市内における土壤の放射性物質濃度調査

4.5 他機関との共同調査・研究

- (1) 関東地方大気環境対策推進連絡会 微小粒子状物質調査会議
 - 関東地域における微小粒子状物質等の実態把握

- (2) 神奈川県公害防止推進協議会 PM2.5 等対策検討部会
県内における微小粒子状物質等の濃度及び成分組成調査
(3) 川崎市・瀬陽市の都市間連携協力事業における PM2.5 共同研究

大気常時測定監視網



一般環境大気測定期局

2018年3月末現在

地区	測定期局名（設置場所）
大師	大師（川崎区役所大師分室）
田島	田島（田島支援学校）
川崎	川崎（市役所第4庁舎）
幸	幸（幸スポーツセンター）
中原	中原（中原保健福祉センター）
高津	高津（生活文化会館）
宮前	宮前（宮前平小学校）
多摩	多摩（登戸小学校）
麻生	麻生（弘法松公園）

自動車排出ガス測定期局

2018年3月末現在

地区	測定期局名（設置場所）
田島	池上（池上新田公園前）
川崎	日進町（都市機構川崎日進市街地住宅敷地内）
川崎	市役所前（市役所前）
幸	遠藤町（御幸小学校）
中原	中原平和公園（中原平和公園）
高津	二子（高津区役所道路公園センター）
宮前	宮前平駅前（上下水道局管理地）
多摩	本村橋（本村橋）
麻生	柿生（麻生消防署柿生出張所）